

はばたき

躍進！世界陸上へ！！

女子100mハードル **中島ひとみ**
(長谷川体育施設)

2位
日本選手権



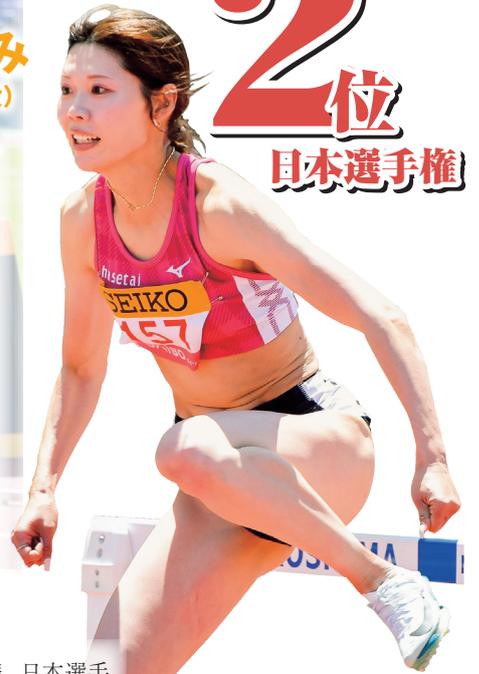
Profile

1995年生まれ。専門種目は100mH。伊丹市立荒牧中学(3年時全中優勝)→夙川学院高校(2年時国体優勝)→園田学園女子大学(現園田学園大学)→長谷川体育施設。日本選手権は4位に初入賞した2022年以来4年連続入賞している。

今年の日本選手権最終種目、注目の女子100mH決勝。中島はスタートから先頭争いを繰り返して、伸びやかにハードルを飛び越えていく。最後は田中佑美(富士通)とほぼ同着でフィニッシュ。一時は中島が1位と表示されたが、最終的に田中が12秒852、中島が12秒855と、1000分の3秒差で決着。「優勝しなかった気持ちは大きいけど、全力は出せた」と納得した。

「12秒台を足がかりに、晴れたような気持ちになれ、世界陸上に絶対出たいと思うようになった」と意識が前を向いた。その感覚は「中学生の頃の『日本一になりたい』という燃えるような気持ち」。5月のゴールデングランプリで12秒85、日本選手権予選では12秒81までタイムを縮めた。

躍進の理由はいくつもある。1台目の入り方や、抜き足を素早く持ってくるよう技術面を改善したこと。12秒台の先輩、後輩、同級生との切磋琢磨。日本選手権のレース後に結婚を公表した、男子400mHの豊田将樹(富士通/宝塚市・南ひばり丘中出身)の存在も支えになっている。荒牧中3年時に全国中学校体育大会を制したのは2010年。早くから世代のトップハードラーだったが、30歳になる今年、日本選手権後の海外遠征で12秒71をマークして世界選手権標準記録を突破。初の世界選手権出場が視野に入ってきた。「夫婦ともども世界を目指して頑張りたい」。夢の舞台へと突き進んでいく。



日本選手権は銀メダル

好調！日本歴代2位

12秒71
2戦連発

中島はこの1年で急成長している。昨年9月に12秒99をマークし、日本人7人目の12秒台選手に。今年4月に初優勝した織田記念で12秒93。

News 女子100mH **13秒31!!** 井上(滝川二高3年)が高校新

第78回兵庫高校対校選手権(2025年5月30日～6月1日/ユニバー記念競技場)の大会1日目、女子100mH準決勝2組で井上風紗(滝川二高3年)が13秒31(+0.7)の高校新記録をマーク。従来の記録を0秒03更新した。

昨年の国民スポーツ大会少年女子Aを13秒49(兵庫高校新)で制した井上。冬期にスプリント力が増し、持ち味の後半の伸びに磨きがかかった。兵庫大会では準決勝1組で後輩の福田花奏(1年)が13秒46の兵庫高校新をマーク。井上は自身の記録を抜かれ、準決勝だが「はなちゃんに負けたくないだったので」と本気のスイッチが入った。決勝では13秒13。追い風2.1mの参考記録だが、衝撃的なタイムだった。



インターハイは13秒40(-0.3)で2位。高校記録も塗り替えられた(井上の記録は現在高校歴代2位)。秋のシーズン、記録奪還に挑む。

第93回兵庫選手権 2025年6月28・29日 ウイंक陸上競技場(姫路市)

男女7つの大会新

男子では400mで久保拓己(滝川二高3年)が大会記録を28年ぶりに更新する46秒92で二連覇を果たした。800mでは四方悠瑚(SAURUSTC)が1分49秒99と前回自身がマークした大会記録を0秒01更新。4×400mリレーは同志社大と関学大が火花を散らし、大会記録を上回る接戦に。同志社大が3分09秒90で勝った。

女子では400mインカレ2位の寺本葵(天理大4年・滝川二高出)が予選で大会新の53秒71の快走。ハンマー投のエバサカ・テレサ(KAGOTANI)は最終投てきで61m99を放ち、大会

新Vを飾った。ほかに、男子三段跳を15m37(+2.6)で制した磯山福太郎(西宮東高3年)は公認でも15m30(+0.5)の好記録。少年男子Aハンマー投の清水蓮大(社高3年)も62m38と全国入賞レベルの投てきを見せた。女子200m&400mで二冠に輝いた幸長愛美(姫路女学院高2年)の力走も光った。



男子100m決勝

日本選手権(2025.7.4~6 東京・国立競技場)兵庫勢が躍動&好記録!!

今年も2冠! 世界選手権W内定!!

1500m 6連覇
5000m 4連覇



日本選手権の3日間を駆け抜けた田中は、女子5000mで4連覇、1500mで6連覇を果たし、2種目で世界陸上(9月13~21日/東京)の代表入りを決めた。

初日の5000mは14分59秒02で、福士加代子さんが持つ大会記録を21年ぶりに更新。「世界で戦えるスパート」と意識し

たとおり、残り4周で前に出て一気にギアを上げ、2位に13秒以上の差をつける圧巻の走りをみせた。「最近の中ではやっと自分らしい走りはできた。自分を許さないという気持ちで走って、今やっと許せた」と手ごたえを示した。

2日目には1500mの予選、最終日は決勝に登場。決勝はスタートから先頭に立ってそのまま独走態勢に入り、4分04秒16でフィニッシュした。2位に5秒以上の差をつけ、5000mに続き、貫録を示したレースだったが、「1人で日本記録を出すくらいじゃないと世界で肩を並べていけない」と厳しい評価を口にした。

「世界陸上はしっかり2種目で勝負できるように頑張りたい」。速さと強さ、自分らしさを追い求めて、挑み続ける。



男子砲丸投で初優勝した森下は「たくさんさんの応援を受けて、リラックスして投げられた。勝ちきれてうれしい」と汗をぬぐった。観客に手拍子を求め、気合を入れた5投目、体を回転させた勢いで砲丸を押し出し、18m19でトップに浮上。東京五輪テストイベント「READY STEADY TOKYO」(2021年)で優勝した好相性の競技場で、念願のタイトルをつかんだ。

自己記録18m30の更新を見据える先に、日本記録19m09の更新も視野に入れる。「優勝を自信に変えていきたい」と力を込めた。



「13年ぶりに自己ベストを38cm更新することができ、やり投の仲間みんなのおかげで最高に楽しい、メモリアルな一日になった。同期の新井(涼平)の最後の日本選手権、優勝した崎山(雄太)、3投目にいったん抜いてくれた後輩の巖(優作/山陽特殊製鋼)らみんな、国内でこういう試合ができて幸せ。要所でしっかり投げ、世界陸上では日本記録更新を目指す」



「日本記録保持者の落合(晃)選手に挑む日本一への挑戦だった。勝てなかったのが喜ばないが、昨年3位から一つ上がって自己ベストで2位。ステップアップしている。来年のアジア大会出場を狙っていく」



遠藤「表彰台に立ててほっとしたが、勝負して優勝を目指したのに、ラストで差を広げられた」

飯澤「優勝は最低限。世界陸上開催国枠記録(3分35秒65)を切りたかったので申し訳ない気持ちです」



序盤から積極的にレースを展開。「本当に負けたくなくて、勝ちたくてレースに臨んだので、達成できてうれしい。9年ぶりの自己ベスト、31歳で初優勝できた。体も心も万全の状態であることができ、結果に出せてよかった。もう少しタイムを出したいし、世界陸上に一歩でも近づきたい」



「決勝に行けるかどうかと考えていたのに、まさかメダルを取れるとは。実感がわかないが、自己ベストで兵庫記録も出せてうれしいし、今後の励みにしたい。個人もマイル(1600mリレー)も記録を更新したい」

第109回日本選手権 入賞した兵庫陸協選手

【男子】		
200m	⑦ 上山紘輝(住友電工)	21秒03
800m	② 四方悠瑚(SAURUS TC)	1分46秒30=兵庫新
1500m	① 飯澤千翔(住友電工)	3分36秒81=大会新
1500m	④ 高橋佑輔(山陽特殊製鋼)	3分38秒91
5000m	③ 遠藤日向(住友電工)	13分39秒30
5000m	⑥ 西川雄一朗(住友電工)	13分43秒20
5000m	⑦ 田村和希(住友電工)	13分44秒31
走高跳	⑤ 衛藤昂(KDL)	2m15
砲丸投	① 森下大地(KAGOTANI)	18m19
やり投	② ディーン元気(ミズノ)	84m66=大会新・兵庫新
やり投	④ 巖優作(山陽特殊製鋼)	79m78
【女子】		
400m	② 中尾柚希(園田学園大)	53秒20=兵庫新
1500m	① 田中希実(New Balance)	4分04秒16
5000m	① 田中希実(New Balance)	14分59秒02=大会新
1000mH	② 中島ひとみ(長谷川体育施設)	12秒86
※予選12秒81=兵庫新		
400mH	① 梅原紗月(住友電工)	56秒43=兵庫新
3000mSC	⑧ 日吉鈴菜(ノーリツ)	10分10秒52
棒高跳	⑦ 那須真由(KAGOTANI)	4m00
円盤投	⑥ 山本実果(コンドーテック)	47m41
ハンマー投	④ 藤本咲良(コンドーテック)	64m77
ハンマー投	⑥ エバサカテレサ(KAGOTANI)	60m92

兵庫リレーカーニバル

2025.4.19・20
ユニバー記念競技場

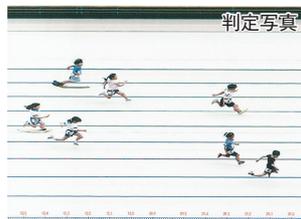
トップ選手～小学生 アスリートが競演

第73回兵庫リレーカーニバルは2025年4月19・20日、ユニバー記念競技場で男女33種目が行われた。グランプリ種目の男子走幅跳は東京五輪6位の橋岡優輝（富士通）が8m10の大会新で優勝。砲丸投は奥村仁志（センコー）が19m08で快勝し、2位に森下大地（KAGOTANI）が入った。女子は円盤投で郡菜々佳（サトウ食品アルビレックスRC）が58m81の大会新V。棒高跳の那須真由（KAGOTANI）は4m

14で2位だった。

中学男子110mHで長谷川緩羽（緑が丘中3年）と阪口聡祐（浜脇中3年）が0秒01差の大接戦を演じるなど、中学生種目も盛況。中学男子4×100mリレーは走幅跳を6m41で快勝した小屋敷祐斗（3年）を擁する和田山中が44秒23で制した。

女子は2000mの池野絵莉（須磨学園高3年）と4×100mリレーの滝川二高がそれぞれ大会新で優勝した。



判定写真

TOPIC

小学1～4年生対象のアシックスチャレンジ・キッズタイムトライアル50mでは記録計測システムの写真判定画像が参加者にプレゼントされ、好評だった。

Report 大学生

園田学園大マイルリレーV インカレ

日本学生対校選手権（6月5～8日／岡山）では園田学園大の女子4×400mリレーが劇的だった。1走の好井愛結（2年：山手高出身）から2走の好井万結（2年：園田高出身）へ双子姉妹でバトンをつなぎ、400m4位のアンカー中尾柚希（3年：園田高出身）が立命大を逆転。3分35秒41で大会新Vを飾った（大学別学生歴代2位）。昨年は予選でバトンを落として失格。その悔しさが栄冠の原動力になった。

（筑波大3年）が5330点で制覇。長田高2年時に優勝したインターハイ以来の「日本一」に輝いた。男子1万m競歩は逢坂草太郎（東洋大2年：川西緑台高出身）が制した。

4月の日本学生個人選手権の女子1500mは太田垣楓華（園田学園大3年：八鹿高出身）が4分19秒26の大会新V。同1万m2位の細見芽生（名城大1年：白鷺中出身）はワールドユニバーシティゲームズ（ドイツ）に出場し、1万m32分01秒91で4位入賞した。

女子七種競技は中尾日香



太田垣



日本選手権リレーもV

（左から定順）好井（愛）、好井（万）、柄尾、中尾

Zoom Upチーム 01 KAGOTANI



応援を栄養に働きながら高め合う

KAGOTANI ATHLETE公式サイト



鶏卵販売加工会社の株式会社籠谷（本社：高砂市荒井町）が、創業100周年を機に、2021年に陸上競技部を創部した。主に兵庫県出身選手の受け皿となり、働きながら競技に励む部員は現在11人。管理栄養士の国家資格を持つ選手を中心にアスリートが考案した商品「+CASTELLA」（プラスカステラ）も誕生し、今年の兵庫選手権では優勝者への副賞として協賛提供された。

創部時から在籍する、女子棒高跳で日本選手権連覇（2019・2020年）、アジア室内選手権優勝（2023年）などの実績を持つ那須真由は「3人から始めて、男子選手も入り、年齢も種目

も幅広くなった。チームで高め合って目標に向かっていける環境がありがたい」と感謝する。

陸上教室など地元への貢献にも力を入れ、主将を務める男子円盤投の蓬田和正は「兵庫に根差し、社会人として責任を果たしていくことが、競技にもつながる」と強調。今春3人が新加入し、その一人、女子ハンマー投のエバサカ・テレサは「会社の方々や地元からの応援がたくさん感じられ、心強い」と目を輝かせる。

2023年には全日本実業団対抗選手権で総合優勝を果たした。今年のチーム目標は、実業団日本一の奪還だ。

近況レポート★普及委員会

普及委員会では、小学生の各種大会・記録会の開催、JAAF公認スタートコーチ・ジュニアコーチ講習、クラブチームの登録などを行っています。今季の小学生が参加する大会は7月までに、兵庫リレーカーニバル、小学生リレー大会、春季記録会、県小学生大会を開催。県小学生大会には男女743人が参加しました。日清食品カップ全国小学生交流大会につながる県交流大会は2025年9月21日（日）に開催予定です。今後も兵庫の小学生アスリートに応援をよろしく願っています。

兵庫マスターズ 陸上競技連盟

「ウェルネス 陸上の実現」へ

近畿マスターズ選手権（奈良市／2025年6月22日）に男女96選手がエントリーしました。兵庫マスターズ・アスリートの大会新1位はW85ハンマー投の荻部裕子さんらのべ7つでした。第44回兵庫マスターズ選手権は9月14日（ユニバー記念競技場）に行われます。兵庫マスターズは引き続き、練習会・講習会や大会参加などを通じて、すべての人がすべてのライフステージで陸上競技を楽しめる「ウェルネス陸上の実現」を目指します。

特集 インターハイ (7.25~29、広島)

優勝 男子5000m 男子3000mSC 男子5000mW 男子三段跳

入賞16の大健闘!

優勝男子5000m

2位男子1500m

新妻遼己 (西脇工3年)

1500m兵庫高校新、5000m33年ぶり日本人V。

「留学生を交えた5000mで優勝できてとてもうれしい。ラスト300mでいけると確信して思い切りいきました。次は、全国高校駅伝で1区区間賞・区間新が目標です」



て、優勝につながりました。この優勝をみんなに分けたいです」



優勝男子三段跳

磯山福太郎 (西宮東3年)

4回目15m54 (+2.0) は兵庫高校新。「全国の舞台上でやり切るとい

で、いい記録がついてきたと思います。苦手なホップも手ごたえがありました」

2位男子ハンマー投/清水蓮大 (社3年)

2回目1位も、3回目に逆転を喫した。「逆転負けは一番悔しい。ただ、こういう場で自己ベストを投げられたことは成長したところだと思います」

6位女子1500m、4位女子3000m

池野絵莉 (須磨学園3年)

2年連続2種目で入賞&自己ベスト。

「入賞を続けられてうれしい。ペースが上がったときに離れてしまいましたが、全力を出せたのでよかったです」

2位女子100mH (T決勝2組1着)

井上風紗 (滝川二3年)

「後半スピードに乗っていましたが、タイムを見ると、伸びなかったのかなと思います」

3位女子100mH (T決勝3組1着)

福田花奏 (滝川二1年)

「1年生でインターハイのメダルをもらえるので満足です。来年は大会記録 (= 高校記録) を超えて勝ちます」



優勝男子5000mW

山田大智 (西脇工3年)

レースの主導権を握り、正確な歩形で歩き抜く。

「先頭にこだわって歩きました。優勝したいと思わない日はなかったくらいなので、とてもうれしいです」

優勝男子3000mSC

徳山博貴 (市西宮3年)

残り50mで逆転勝ち。

「チーム、先生、家族、みんなの支えが重なっ



【男子】 400m ④久保拓己(滝川二3年) 46秒74	三段跳 ⑥板野結希(滝川二2年) 15m28(+1.4)
1500m ②新妻遼己(西脇工3年) 3分40秒83★	ハンマー投 ②清水蓮大(社3年) 64m90
5000m ①新妻遼己(西脇工3年) 13分50秒05	【女子】 400m ④幸長愛美(姫路女学院2年) 54秒18
5000m ⑥赤坂勇輔(西脇工3年) 13分55秒08	1500m ⑥池野絵莉(須磨学園3年) 4分16秒73
3000mSC ①徳山博貴(市西宮3年) 8分53秒04	3000m ④池野絵莉(須磨学園3年) 9分04秒38
5000mW ①山田大智(西脇工3年) 20分13秒72	100mH ②井上風紗(滝川二3年) 13秒40(-0.3)
5000mW ⑤大崎壮真(市西宮3年) 20分51秒27	100mH ③福田花奏(滝川二1年) 13秒42(+1.2)
5000mW ⑥辻那悠太(市西宮2年) 20分55秒05	5000mW ③逢坂ひかり(市西宮2年) 23分13秒26
棒高跳 ③杉本惺昭(明石商3年) 4m80	七種競技 ②本多七(園田3年) 5195点
棒高跳 ⑤山田睦明(明石商3年) 4m70	
三段跳 ①磯山福太郎(西宮東3年) 15m74(+2.1) ※15m54(+2.0)★	

★=兵庫高校新

Report 全国中学に 県中学総体 98人が挑む

第69回兵庫県中学総体陸上競技は2025年7月26・27日に行われた。4×100mリレーの男子は大会記録を2校が上回るハイレベルな戦い。豊岡南が42秒78で優勝し、全国切符を手にした。女子は48秒75で山陽が制して全国に挑む。

男子100mの3年は瀧陸斗(津名)が10秒73で優勝。準決勝では追い風参考ながら10秒66(+3.2)で走った。2年では西田侑生(北神戸)が10秒81、山口凌(本多間)が10秒99をたたき出し全国に挑む。

兵庫中学スプリントは年々ハイレベルに。今季は4名が兵庫中学歴代10傑に入った。男子110mHは長谷川緩羽(緑が丘)が兵庫中学歴代2位となる13秒77で優勝した。

女子は走高跳で石井美優(大久保)が今季全国ランキング4位となる1m66で優勝。1500mは1~3位を関口花奈(園田)、森真帆加(星陵台)、木村葉月(荒井)のいずれも2年生が独占した。砲丸投の植原渚(志方)と円盤投の永井愛

花(浜の宮)も2年生Vを飾った。2年生の躍進が目立った。

今年度、兵庫県勢は男女98名が全国大会参加標準を突破。8月17日に開幕する沖縄全中で熱戦が繰り広げられる。

2024年度日本陸連栄章受章者

乾 寿紀 (平岡南中学校)



新井宏昌 (園田学園高校)

中学優秀指導者章

※中学生競技者の指導者として特に功労があった者

「おかげさまで選手に恵まれ受章することができました」

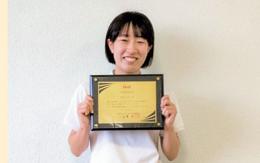
高校優秀指導者章

※高校生競技者または18歳未満の勤労競技者の指導者として、特に功労のあった者

「多くの諸先輩の方々、生徒たちのおかげです。今後も精進してまいります」

齋藤朱里

(北摂三田高・現立命館大学)



高校優秀競技者章

※高校生競技者または18歳未満の勤労競技者として優秀な者

「この度は優秀競技者章をいただき光栄です」

大森咲綺

(広畑中学校・現神戸山手グローバル高校)



中学優秀競技者章

※中学生競技者として優秀な者

「これからも自己ベストを更新し続けられるよう頑張ります」

※日本陸連 栄章規程(抜粋)

一般財団法人兵庫陸上競技協会 新体制

(2025年6月)

名誉会長	植月 正章	理事	総務委員長	西角 智成 (新任)
代表理事	会長 松本 俊裕	理事	財務委員長	五島 昇 (新任)
理事	副会長 竹原 昇	理事	強化委員長	原田 隆司
理事	副会長 安藤 和正	理事	競技委員長	藤田 和洋 (新任)
理事	副会長 藤川 浩喜	理事	審判委員長	松岡誠一郎
理事	専務理事 秋山 秀文 (新任)	理事	情報委員長	藤田 修路 (新任)
理事	副専務理事 五島 昇 (新任)	理事	普及委員長	小山 正典 (新任)
		理事	施設委員長	谷河 歩 (新任)
		理事	医事委員長	松本 彰生
		理事	女子委員長	西盛 康子

